

人材育成

共に学べる機会づくり

今年度より、通所事業部と公共サービス事業部合同の研修を実施してまいります。

公共サービス事業 統括課長 阿波連 建世

それぞれの事業部の知識や経験、課題等を共有し、共に学べる機会をつくっていきます。
今年度開催を予定している合同研修の一部を先行紹介させていただきます(^^)／

VR認知症体験

VRの技術を活用し、認知症の中核症状を一人称で体験するものです。

認知症の方の「徘徊」「帰宅願望」「入浴拒否」「暴力・暴言」などの行動は”認知症の方の本人の問題”と思われるがちですが、周囲の理解やコミュニケーションが大きく影響していることが多いということを、ご本人の視点を体験することで理解につなげることを目的としたプログラムです。

※プログラム開発 ㈱シルバーウッドHPより

VRで認知症の世界を体感



介護予防運動指導員養成講習 PCスキルアップ研修(広報誌編)

主任介護予防運動指導員による介護予防運動指導員養成講習を開催します。



WordやPowerpointで広報誌やポスターを作る際のコツや具体的なテクニック等をプロの講師から学べる研修を開催します。



令和3年4月開所事業所の紹介

板橋区立仲町ふれあい館

皆さまこんにちは！

4月1日より板橋区立仲町ふれあい館の館長となりました、井上麻美と申します。仲町ふれあい館は複合施設で、1階には同じく奉優会が運営するおとしより相談センターやデイサービス、2階は地域センター等がありとても賑やかです。あたたかみのある施設なので、施設に到着すると「ただいま〜♪」という気持ちになります。すぐ近くには大きな商店街「ハッピーロード」があり、こちらも賑やか！昔ながらの魅力的な個人商店や石神井川の自然の中を歩くだけでとても楽しいです。素晴らしい環境と、優しく頼もしい職員に囲まれて、仲町ふれあい館と仲町地域を盛り上げていけるように頑張ります！

館長 井上麻美



北区ファミリー・サポート・センター

みなさま、こんにちは。北区ファミリー・サポート・センター、センター長の二村啓子と申します。

北区ファミリー・サポート・センターは、育児のサポートを受けたい人と、サポートしてくれる人を結び、区民同士で助け合えることを目的にしています。今は連日のように、保育園に入る前の赤ちゃんとお母さんたちが会員登録に来てくれます。小さいお子さんの可愛い笑顔に癒されています。そして、徒歩15分くらいのところに、北区いきがい活動センターがあるので、連携できるのも心強いです。訪れるすべての人にとって心が安らげる場所となるように、花を植えたり室内を飾りつけをしようと、職員で楽しんで計画しています。

センター長 二村啓子





社会福祉事業 : 地域社会活性改革

社会福祉事業本部として通所サービスと公共サービスによる活動を新たに開始

社会福祉事業本部長 平林孝浩

昨年度より、新たな社会福祉事業本部として通所事業部(通所)と公共サービス事業部(公サ)による活動を開始しました。昨年度はコロナ渦での慣れない運営の中、新型コロナウイルス感染症拡大予防にご協力いただきありがとうございました。通所においては、他施設をご利用されているご利用者からの感染確認等もありましたが、事業所内感染はほぼ無く、クラスターを起こすことなく終息させる事が出来ました。まだまだ、緊張感のある運営は続きますが、皆様の頑張りにより心より感謝いたします。

法人としても令和2年度は、目標としていた事業活動収入100億を達成し、3月には通所全事業所当期増減差額黒字化を達成する事ができました。皆様に感謝すると共に、更なる安定運営を目指して行きたいと思っております。



さて、中期計画において、社会福祉事業本部は『地域社会活性改革』を長期目標に掲げています。その為に、2021年度は両事業部のノウハウを有効活用させる事でハイブリッドサービスを展開します。地域の包括ケアの中核として、地域のフレイル予防に繋がるサービスを創造していく事を目指しています。通所においては、「デイが在宅生活継続を支えるちよいポラ支援の【公益型混合介護】と自宅でも通所でも、現実でもバーチャルでも参画できる【ハイブリッド型サービス】によりその人の自由や望む生活を地域と共に支援する仕組みを創造する事を目指しています。公サにおいては、【「多様な価値観」を尊重】し、【「進化するテクノロジー」と共に】地域の高齢者が安心して暮らせる日常を地域に創造する事を目指しています。

今年度はコロナによるニューノーマル(新しい日常)をチャンスと捉えて、両サービスに共通する仕組みである【ハイブリッド型サービス】を展開し発展させていく事を最重要実施目標としています。ハイブリッドサービスは、ご利用者へのサービス提供の質を上げると共に、職員の負担軽減にもつながり、地域住民へのサービス提供支援の仕組みが構築され、介護保険の抑制にもつながる施策です。

また、この施策は全てが決まった状態での展開ではなく、新しい事に皆さんとチャレンジしながら意見交換して一緒に創造していくサービスです。新しい取り組みとしての不安もあると思いますが、利用者にも・地域にも・自治体にも、そして職員にとっても価値のある物だと確信しています。皆さんのチャレンジをよろしく願いいたします。

今年度もよろしく願いいたします。

公共サービス : Respect Plus Technology

多様な価値観をリスペクトし、進化するテクノロジーと共に安心して暮らせる日常

公共サービス事業部長 小宮山 友宏



昨年度は、公共サービス事業部においても、コロナ渦の外出自粛に伴い、様々なサービス提供や、日常業務のツールとしてオンライン化が加速しました。

なお、テクノロジーの進化は生活を豊かにする良い影響と考えられますが、馴染みの無い方にとっては、生活しづらい環境になりかねません。

身の回りのテクノロジーが進化される度に、私たちの仕事の在り方においても、変革が求められている事を実感します。

また最近耳にする機会の多い国際目標SDGsは、「誰一人取り残さない」為の素晴らしい計画ですが、現実においては、個々の固定観念により、日常生活の中で、計画の実行が困難な状況もあると思っております。

その課題に対し、私たちの事業をきっかけとして、多様な価値観を「リスペクト」し、「テクノロジー」の進化に適応しながら、「誰一人取り残さない」目標に向き合うべく、公共サービス事業部のビジョンを、「リスペクトプラステクノロジー」としました。

将来、年老いた私も、多様な価値観の人々や文化に触れる為に、気後れする事なく、若作りしながらバーチャル空間でいきがいを感じられたら最高です。

より多くの価値観をリスペクトしながら新しい生活様式に合わせた仕組み作りを、ご一緒に楽しみながら進めていきましょう。

KOUFUKU Plus Ultra!(公共サービス事業部スローガン)

通所サービス DX推進

新しいブランド価値の創造

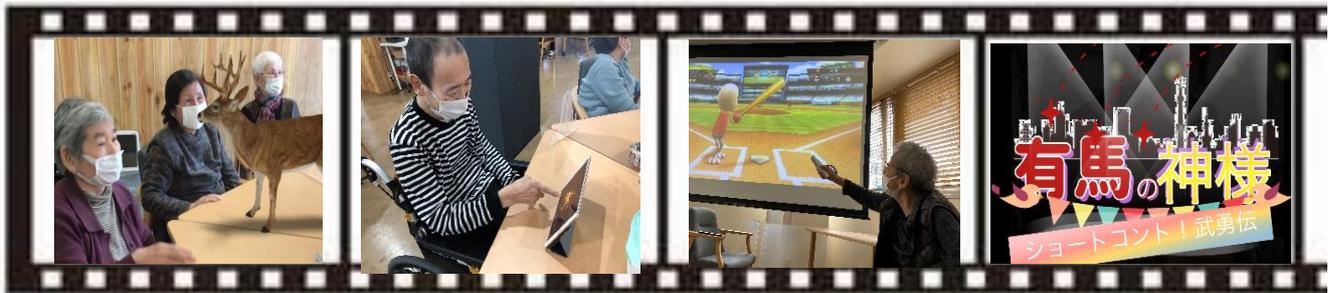
通所サービスとして、デジタル機器を使用した、新しいプログラム提供や広報での活動にチャレンジ中！

通所事業部 奉優デイサービス川崎有馬 事業所責任者 古林 美重

過ごし方

次世代型プログラム展開

通所事業部では令和2年度、全事業所にプロジェクターやIT機器を導入しました。コロナ禍でなかなか思うような活動ができず、外部との関わりも少ない一年となってしまいましたが、これらを導入することで、過ごし方の改革に期待できます。



- ・新しい体験 (AR・VR)
- ・オンラインボランティア確保
- ・他事業所との合同レク
- ・ボラ講座の共有
- ・個別対応の充実
- ・アプリ活用
- ・eスポーツ参加 などなど

広報

営業活動にも、IT機器は有効

YouTube等の動画配信をすることで、よりリアルに事業所の様子を知って頂け、ご家族への安心提供に繋がり、居宅営業では事業所のアピールができます。また、Zoomでの担当者会議も最近では珍しくありません。ZoomやYouTubeのアカウント取得への取り組みも進めています。



その他

「オンライン講座・プログラム表作成」

通所事業部では、オンラインで共有できる「講座」や「レク」「体操教室」等の年間プログラム表作成を目指しています。各事業所で手工芸や体操など、得意な職員さんがいましたら、是非、共有お願いします！



「リモートダンス教室」



「落語(弥生)」

レクの充実



- ・選べるレク
- ・意欲向上
- ・業務効率化



- ・満足度UP
- ・集客UP

責任者 古林よりひとこと

新しいものへの取り組みは、苦悩も多くあると思いますが、「これならできそう」「簡単そう」「〇〇事業所に教えてもらおう。。。」「試行錯誤しながら楽しんで挑戦して頂ければと思います。

最新情報はコチラ



取り組み

会場や自宅で受講できるプログラム展開

公共サービス事業部が目指しているオンライン講座は「ハイブリット型オンライン講座」です。インターネットの知識に自信のない方は会場で受講し、感染症の不安があり来館が難しい方は自宅で講座を受講できるよう講座を運営しています。



白金いきいきプラザ
「詐欺防止講座」



ふじみ野介護予防センター
「医師会講座」



城東ふれあいセンター
「おりがみファン」

注目！

目黒区高齢者センター わくわくオンライン文化祭



絵画サークル



フラダンスサークル



太極拳サークル



ゲートボールサークル

ご紹介する事業は『わくわくオンライン文化祭』です。サークルの活動風景を撮影し、YouTubeで公開しました。参加サークル14団体、平均再生回数が350回、最も再生回数が多いサークルで1,500回を越えました。個人の「動画を見たい、家族、友達に見せたい」という目標が、ICTを活用していなかったメンバーへ広がりを見せ、それがサークル全体の目標となる、目標の伝染が起ったといえます。

●目標の伝染～ICTを楽しむきっかけ～

個人の目標

- ・家族や友人に見せたいという「欲求」
- ・何度も視聴できる「楽しみ」

サークル全体目標

- ・みんなで見たい「欲求」「意欲」
- ・メンバーが使用していることでの「安心感」

目標の伝染
ICTを楽しむ
きっかけ